

『新都心の自然と開発の跡を訪ねてみよう』～高沼用水をたどって昔の自然観察～

平成31年4月27日(土)

さいたま支部ペガサス分団

さいたま新都心は大宮と浦和の間、大宮台地の上にあります。今は高層ビルの立ち並ぶ都会となりましたが、かつては町はずれのさびしい場所であったといわれています。その開発の歴史は、自然環境とのかかわりが大きくなっています。

さいたま市には江戸時代に見沼という大きな沼がありました。8代将軍徳川吉宗の米の増産施策により、見沼を干拓して水田にする開発が行われ、その水源として、利根川から長さ約70kmの見沼代用水が開削されました。この時、同時に干拓された多くの沼の一つに鴻沼があります。鴻沼は現在の埼京線と京浜東北線の間の高沼川沿いに細長く続く沼でした。その沼を水田に変えて稲作をするには水源にする水が必要です。当時の人々は、見沼代用水の水を分水することを考えました。

しかし、鴻沼と見沼代用水西縁の間には大宮台地があり、そのままでは水を引くことは不可能です。いかに少ない工事負担で安定した分水を確保するか。そこで選ばれたのが北袋の小さな谷戸と下落合の小さな谷戸の間の台地を削り、分水を引く用水路を開削することでした。こうして高沼用水は完成しました。現在のさいたま新都心駅ホーム南端になります。

土木機械の無かった江戸時代、少ない工事負担で大きな成果を出すために、当時の人々は地域の自然環境をとことん研究したと思います。用水を引くために数10cmでも低い場所を探し、漏水しにくい粘土質の地盤を選び、農作業の少ない冬に短期間で工事をしたことでしょう。

1 期日 平成31年4月27日(土)

☝ 雨天、雪、交通事情の混乱の時は中止します。

2 集合 さいたま新都心駅改札付近 午後2時30分

3 解散 与野本町駅 午後5時頃

4 自然観察ウォーキング 全行程約2.5km

さいたま新都心駅→与野東中学校→落合陣屋跡→与野中央公園→与野本町駅
天候などにより、当日になって行程を変えることもあります。

5 持ち物

雨具、セロハンテープ、持っていれば双眼鏡

6 その他

- ・ペガサス分団活動は参加人数を把握して資料を用意する関係上、事前の申し込みをお願いします。
- ・小学4年生以下の児童には、保護者の方の付き添いをお願いいたします
- ・途中で先に帰る場合は年齢にかかわらず保護者の方の付き添いをお願いいたします。
- ・団体行動です。1人で行動してはいけません。1人のときはリーダーに行ってもらいましょう。
- ・危険なもの、まわりに迷惑をかけやすい物(刃物、ライター、モデルガンなど)は、もってこない。
- ・天候、交通事情、団員の健康状態等で予定を変更することもあります。